



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第8回例会(8月28日)
平成27年9月4日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例会場 同上 TEL(651)1111(代)
例会日 毎週金曜日12時30分～

会長 岩野 法光
幹事 吉江 信博
会報 福田 荘介
クラブ事務局 TEL(653)5682
FAX(653)5622

Be a gift to the world. '世界へのプレゼントになろう'..... K. R. ラビンドラン



パスト会長卓話シリーズ 第一弾

「台湾で知った我が先人の偉業」

(株)村源 取締役会長
村井 研一郎君

1985-1986年度会長：村井研一郎
副会長：佐藤 義正
幹事：田中 紀雄
RIテーマ YOU ARE THE KEY
(あなたが鍵です)

仙台旧制二高時代の山仲間5人、妻同伴の10人で台湾を旅行しました。今年の3月ですから、いささか旧聞に属しますが、暫時、お耳をお借りいたします。

仲間の一人に、日華大陸問題研究会議のメンバーが居まして、その発案の旅行でしたが、彼の提案で、旅行準備として皆で2冊の本を読みました。それは、司馬遼太郎の「台湾紀行」(街道を行くシリーズ・40朝日文庫 1997年)と蔡焜燦の「台湾人と日本精神」(小学館文庫2000年)です。前者はシリーズ43巻の中で、政治問題に言及したのはこれだけだそうで、綿密な現地の調査と緻密な歴史観を経て、複雑な台湾問題を見事に解明した内容に台湾人は狂喜したそうですし、台湾、日本でもベストセラーになった名著です。

その中に、司馬さんの調査旅行での相方をつとめ、老台北と呼ばれてしばしば出てくるのが後者の著者の蔡さんです。彼は1927年台湾生まれで、台中州立商業学校を卒業、敗戦の年に岐阜陸軍航空整備学校奈良教育隊に入校、終戦

後台湾で体育教師になりますが、後に実業界に転身、現在、半導体デザイン会社「偉詮電子有限公司」の会長をされている方で、在日台湾人の金美麗さんと共に長年にわたって、日台間の「私的外交官」をやっておられる方です。

この両著を一読して、今まで知らなかった日本統治時代の私たちの先輩日本人の偉業を知り、大変感銘を受け、そして旅行中に接した何人かの台湾の方がたの話や先輩の事跡を直接見て、感慨無量のものがありました。その中から二つの事をみなさんにお伝えしたいと思います。

その一つは両著書の中に記載されている「児玉源太郎、後藤新平、新渡戸稲造の偉業」であります。

「台湾紀行」の中に、「児玉・後藤・新渡戸」という1章がありますし、蔡さんの著書では、「台湾近代化の父後藤新平」という章があります。

児玉は明治31年、(1898年)第4代台湾総督として着任しその右腕の民生長官として赴任したのが医学博士のわが郷土の偉人、後藤新平

だったのです。

児玉源太郎、明石元二郎など、明治維新の新生日本を世界に冠たる国家へつくりあげた偉人たちが台湾総督として送り込まれ、彼らは台湾の近代化のため懸命に取り組んだのでした。

司馬さんの「台湾紀行」のなかにこんな一節があります。『児玉は台湾総督であること8年(1898年～1906年：明治31年～39年)に及んだ。この間、日露戦争がおこり、児玉は「満州軍総参謀長」として出征した。かれが砲煙のなかで全野戦軍の作戦を総覧しつつ、文官である台湾総督の印綬を外さなかったという一事をみても、当時の台湾統治がいかに困難なものであったかが想像できる。児玉は、後藤新平という医者あがりの逸材を見出し、後藤に総督の印をあずけて出征したのである。「うかつな者が総督になれば、台湾はもとの台湾になる」というていたらしい』このくだりを読んだとき、彼らの祖国に対する命がけの献身を感じました。戦争が終わった翌年、明治39年、児玉は精根が尽きたようにして死んだといわれます。その生涯は54年でしかなかったのです。

さて、後藤新平は着任するや、多忙の児玉を助け、大規模な土地・人口調査を実施したうえ、道路・鉄道・上下水道・港湾などのインフラ整備をはじめ、衛生環境と医療の大改善などの数々の大事業をやったのけたのです。その結果、世界有数の伝染病根源地だった台湾からマラリヤ、ペストをはじめあらゆる伝染病が消えていきました。後藤の肝いりで内地から百名を超える医師が招かれ、全島各地に配置されて近代的衛生教育を徹底し、次々と改善策を講じたのでした。

又、全島調査で、アヘン吸引習慣の全容を把握した上で、アヘンを専売制にし、中毒・常習者に限って販売するが、新たに吸引する者は厳罰に処せられ、アヘン患者を自然に減少させるこの方法で、当初全人口の6%にのぼった中毒者は1941年までに0.1%に激減したのでした。

後藤新平の推薦で、新渡戸稲造が総督府技師として赴任、サトウキビの品種改良を行い、製糖産業の殖産に全力を挙げ、短期間で製糖による台湾統治費用の経済的基礎を確立させたのでした。さらに楠からの天然樟脳などは世界の8割を台湾産が占めていたことも日本統治時代の新渡戸の遺産であります。

1999年(平成11年)、台湾の人々によって、台南市で後藤新平・新渡戸稲造の業績を称える国際シンポジウムが開催され、台湾からは、経済界・学術界の要人が顔を揃え、日本から後藤新平の孫、健蔵氏、新渡戸さんの孫、加藤武子さん、盛岡からも大堀勉先生や内川氏もパネラーとして招かれたのでした。

そのとき、実業家の許文竜さんのスピーチは本当に心に残るものだったそうです。

「台湾の今日の経済発展は、日本時代のインフラ整備と教育の賜物です。当時、搾取に専念したオランダやイギリスの植民地と違い、日本の政策は自国での政策そのままの良心的なものでした。戦前の日本統治に対して、中、韓国で言われる謝罪など必要はありません。謝罪すべきは、世界で一番の親日国家である台湾を見捨てた戦後の日本外交姿勢です。」

と現代日本の歪な歴史観を正し、最後に「本日、このシンポジウムを開いたのは日本人を喜ばせるためではなく、自信を失いかけている日

本人にあなたがたの先輩日本人が台湾でどのような優れた業績を残していたかを分かって貰いたかったからです」と言い、さらに付け加えて「戦前の日本人に感謝の意を表するとともに、日本人が築いた功績によって今日の台湾があることを忘れないでいただきたい」と、会場に詰め掛けた台湾人に呼びかけたのでした。その場に居合わせた日本人は、思わず目頭をぬぐったそうでもあります。

その許さんは後藤新平の胸像をつくり、一体は台湾にもう一体は1999年6月、夫妻で水沢市を訪れ、後藤新平記念館に寄贈しました。

二つ目に是非、お伝えしたいことは烏山頭ダムを築いた土木技師八田与一のことです。

私たちは台中から約100キロ南下して高速道を下り、東に向かって間もなく烏山頭ダム（珊瑚潭；下村海南 命名）に着きました。いまでは台湾最大の穀倉地帯の嘉南平野一帯も、日本の統治が始まった頃は一面の不毛の大地だったそうです。

それを緑の大地に変えたのは日本人技師・八田与一の活躍でありました。

ダムの畔に、最近建てられた八田技師記念館がありました。八田の業績とその生涯を記録する資料が展示されています。四高～東大時代の学生生活を偲ばせる遺品、ダム・灌漑工事時代の現場や家族の写真などが飾られています。彼は1920年から10年がかりで、烏山頭ダムをつくり、旱魃と洪水を繰返す嘉南の荒れ野に全長16,000キロの水路を張り巡らし（実に万里の長城の約6倍の長さ）15万ヘクタールの台湾最大の穀倉地帯をつくりあげたのです。しかも、このアジアで最大の烏山頭ダム工事には外国の

ように政治犯などを使ったりせず、労働者には、1日、1円20銭の労賃を払ったのでした。当時の台湾の平均的月給は18円の時代で、高待遇であります。

地元民は感謝の気持ちを込めて、1931年にダムの畔に作業服姿の工事現場で物思いにふける八田の銅像を建てました。戦後、蒋介石の反日教育時代は地元民の機転で秘匿されて、現在ダムの畔の八田夫妻の墓の側にありました。八田技師は昭和17年、徴用でフィリピンの灌漑調査に赴く途中、アメリカの潜水艦の攻撃を受けて殉職されました。記念館で、八田与一の業績をまとめた約20分のビデオを見ました。

終わった時、我々のガイドの許文福さんは感極まったのか「こんな立派な方が台湾のために尽くしてくれたのに、嘉南平野周辺の人とは別ですが、あまり今の台湾で知られていないのが残念だ」と言って目頭をぬぐっていました。

戦争が終わって、日本人が引き揚げる中、烏山頭の現場近くの家で終戦を迎えた八田外代樹夫人はその年の9月1日、身辺を整理し、8人の遺児たちに簡潔な遺書を残して、衣服を改め、夫の心血をそそいで造りあげたダムの放水口に身を投じたのでした。嘉南平野の人々は夫妻の死を悼み、夫妻の墓をつくり、与一の命日の5月8日には毎年、墓前で、慰霊祭を行って夫妻の遺徳を偲んでおるとの事です。その日には、遺児の方々も参列されるそうです。

司馬さんは、この夫妻が国籍・民族を超えた存在になっていると書いております。

むすび

こんどの台湾旅行で、明治・大正の先輩日本

人の偉業を知ることが出来、望外の幸せでした。考えてみますと児玉、後藤、新渡戸、明石元二郎と日露戦争前後のまさに、存亡をかけた困難の時代にかくも優れた人材を台湾統治に差し向けた当時の政府の度胸というか卓見には全く頭が下がる思いです。そして蔡さんが言う「台湾人が最も尊ぶ日本時代の遺産はダムや鉄道などの物質的なものだけではなく、「公」を顧みる道徳教育など精神的遺産である」という言葉を

噛み締める次第です。

それにしても、幼稚なスキャンダルに明け暮れた昨今の政界は、中国本土に気兼ねなどせずに、台湾での先人の歴史を学ぶべきでないかと思うのです。

「日本を立て直すために、明治時代の近代化の歴史をたどり直すと、学ぶことが多い」という傾聴すべき意見があります。

ご清聴有難うございました。



例会報告

第8回例会
平成27年8月28日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
- ・司会 岩野法光会長
- ・ソング 手に手つないで
- ・会長報告 岩野法光会長
- ・幹事報告 吉江信博幹事

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡北R.C.=9月16日(水)は、親睦「お月見会」開催のため18:30より 場所未定
- 盛岡西北R.C.=9月16日(水)は、ガバナー公式訪問のため18:30~時間変更

【ニコニコBOX】

- ◆楢崎憲二君…卓話 バスト会長シ

リーズの先陣を切っていただいた村井会員に感謝します。知らない事を沢山教わりました。ありがとうございました。バスト会長の皆様、今後とも宜しくお願いします。
◆小川 惇君…後藤新平、新渡戸福造つながりで、台湾と岩手のルートが出来たのか、私の父も台湾の建築技師として大正時代約10年間総督府に努めておりました。

出席報告 会員数 /72名 出席数 /43名 出席率 /64.18% 前々回 / 休会

プログラムの
お知らせ

- ・9月 4日(金) 新入会員卓話 大平騰一会員
「家族の幸せをお守りする万が一の「交通事故」対策」
- 11日(金) ゲスト卓話 山口和彦様 (岩手スポーツプロモーション代表取締役社長)
「岩手ビッグブルズの今後」
- 18日(金) 特別休会
- 25日(金) 新入会員卓話 平賀和幸会員

- 本号編集担当 / 吉原 伸和
- 次号編集担当 / 豊岡 正幸